



Title	母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究 第22号 編集後記／奥付
Author(s)	
Citation	母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究. 2026, 22, p. 163
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/105102
rights	This article is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives 4.0 International License.
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

編集後記

2025年8月15・16日にオンラインで開催されたMHB2025年度研究大会では、「トランスランゲージング・クラスルーム：理論から実践へ」をテーマに掲げ、Ofelia García博士をお迎えし、「言語の脱植民地化とトランスランゲージング教育論：その目的と方法」をテーマに基調講演をしていただきました。また、大会実行委員会として「トランスランゲージング再考—概念的多様性とその射程—」と題した講演＆パネルセッションや会員による研究発表などが行われ、活発な議論が繰り広げられました。本号『母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究』第22号には、研究大会の基調講演をしてくださったOfelia García博士の講演録が1本、友沢昭江氏による特別寄稿が1本、投稿論文が7本の計9本が掲載されています。大会発表をもとに執筆された論文や、新たな領域や研究手法に挑戦した研究をまとめた論文など、大変充実した研究成果が集まっています。

本号には合計17本（研究論文15本、調査・実践報告2本）の投稿論文が寄せられました。本学会のテーマである母語・継承語・バイリンガル教育に関わる明確な問題意識が伝わる意欲的な原稿ばかりで、改めて本分野の広がり可能性を実感いたしました。今回は採択に至らなかった原稿の中にも、わずかな差で見送られたものが少なくありませんでした。結果のいかんにかかわらず、本誌への投稿という挑戦そのものに、心より敬意を表します。査読で寄せられたコメントをご参照いただき、今後の研究や実践をさらに深めていただくとともに、ぜひ改めてご投稿をご検討いただければ幸いです。

また、ご多忙の中、丁寧かつ真摯に査読にご協力くださった委員の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。示唆に富む数々のご指摘は、本誌の質を支えるものであると同時に、編集に携わる私どもにとっても多くの学びをもたらすものでした。

なお、前号より本誌の呼称を「紀要」から「ジャーナル」へ変更し、現在は一般公開する形に切り替えております。学術的な位置づけを明確化して国際的な可視性を高め、本誌をより多くの方に活用していただくことを目指しています。MHBジャーナルが多くの読者の手に取られ、今後の研究交流や新たな投稿へとつながっていくことを、心より願っております。

最後に、共に最後まで走り続けてくれた編集委員の宮崎幸江理事、松田真希子理事、そして編集・校正に多大なるご尽力を賜ったあおぞら印刷さまに心より御礼申し上げます。

MHB 学会理事 ジャーナル編集委員

委員長

三輪 聖

母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究 第22号

2026年5月31日 発行©2025母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）学会

発行者：母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）学会

MHB事務局：〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

立命館大学 文学部

佐野 愛子 研究室内 MHB学会事務局

電話：075-466-3171（直通） URL. <https://mhb.jp>

印刷所：株式会社あおぞら印刷 〒604-8431 京都市中京区西ノ京原町15